

Q1. 結核って、どんな病気ですか。

A1. :結核菌という細菌が体の中に入り、増えることによって起こる病気です。日本では結核患者さんの約8割は肺の中で結核菌が病気を起こす、肺結核です。

肺結核以外の2割は、肺以外の臓器が結核菌に冒される、肺外結核です。腎臓、リンパ節、骨、脳など体のあらゆる部分に結核菌は炎症を起こすことがあります。

また、結核は小さいお子様から、健康な大人、そしてお年寄りまですべての年齢層に起こりえます。

Q2. 肺結核では、どんな症状がでるのですか。

A2. 初期の症状はカゼと似ていますが、せき、痰(たん)、発熱(微熱)などの症状が長く続くのが特徴です。また、体重が減る、食欲がない、寝汗をかく、などの症状もあります。

さらにひどくなると、だるさや息切れ、血の混じった痰(血痰)などが出始め、治療をしなければ、喀血(血を吐くこと)や呼吸困難に陥って亡くなることもあります。

Q3. 人から人に、うつるのですか。

A3. 結核は伝染病であり、発病して病気が進行すると、他の人に結核をうつす可能性があります。

Q4. どうやってうつるのですか。

A.4. 肺結核を発病している人が、体の外に菌を出すことを「排菌」といいます。肺結核を発病している人が、せきやくしゃみをするすると飛沫(しぶき)に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、空気中に数時間も浮遊した状態になります。浮遊した結核菌を空気と一緒に、他の人が吸い込むことにより「感染」します(空気感染)。

Q5. 「感染」と「発病」とは、ちがうのですか。

A5. 結核の患者さんの近くにおいて、結核を吸い込み、肺の組織中で、結核菌が住みついた状態を「感染」といいます。しかし「感染」したからといって、全ての人が「結核を発病」するとは限らないのです。

「発病」とは感染した後、結核菌が活動を始め、菌が増殖して体の組織を冒してゆくことです。

Q 6. どうなると発病するのですか.

A 6. 感染した人のうち、発病するのは、10%程度（10人に感染しても発病するのは1人程度）と考えられています。さらに発病する方のうち、約半分は、感染してから2年くらいの早いうちに、結核を発病します。

また、感染後の数年～数十年後に結核を発症することもあります。免疫力が弱まったりすると、人の組織の中で、眠っていた、結核菌が再び活動を始め、発病しやすい状態になると考えられています。抵抗力のない人（お年寄り、過労、栄養不良、他の病気による体力低下等）は、発病しやすいといわれており、注意が必要です。

Q 7. 結核は、昔の病気の様な印象ですが、今でも患者は多いのですか.

A 7. 昔は日本でも、結核が大変はやっていました。第二次世界大戦の終戦（昭和20年）直後の、昭和25年頃まで、結核が日本の死亡原因の第1位でした。適切な治療法が開発されてからは、患者数は減少してきています。

しかし、今でも日本国内だけで、年間2万人程度の新しい結核の患者が発生し、年間で2,000人以上の人が結核で命を落としている日本最大の感染症なのです。

Q 8. 結核かもと思ったら、どうしたらいいのですか.

A 8. 初期症状はカゼと似ていますが、2週間以上、せきや痰（たん）、微熱が続くようなら、早めに病院にかかりましょう。

Q 9. 結核は、治るのですか.

A 9. 昔は多くの方が亡くなりました。今は薬（抗結核薬等）が開発され、きちんと薬を飲めば治ります。しかし、病院への受診が遅れたり、診断がおくれたために病気が進行して重症になった場合や、免疫状態（抵抗力）が著しく低くなった場合には結核で亡くなる場合もあります。

Q 11. 必ず入院するのですか.

A 11. 肺結核を「発病」して、結核菌をたくさん「排菌」している場合は、入院になります。内服治療をして、1～2ヶ月すると、排菌もなくなってくるので、退院して、外来通院で内服治療を継続します。

Q 12. どんな治療をするのですか.

A 12. 基本的に薬で治します。3～4種類の薬剤を服用します。服用期間は、基本的に6～9ヶ月ですが、個人の病状や経過によって長くなる場合があります。

Q 1 3. 悪化させないためにはどうしたらよいのですか。

A 1 3. 結核は通常、薬（抗結核薬等）を医師の指示通りに飲めば治ります。大切なのは、医師から「薬を飲むのを止めてもいい」と言われるまで、処方された通りに薬を飲み続けることです。

せきが止まったからといって勝手に薬の飲み方を不規則にしたり、飲むのを止めてしまったりすると、結核菌が「薬に耐性」を持ち、薬の効かない菌（耐性結核菌）が出来てしまいます。

耐性菌結核は、通常の治療よりも多種の薬を、さらに長期間服用しなければならず、場合によっては、手術をして、病巣を切除しないといけない場合もあります。

Q 1 4. 家族や職場の同僚など周りの人は大丈夫ですか。

A 1 4. 発病・排菌中の患者の方が、もし周囲の人に感染させた可能性がある場合、保健所が、周囲の方々への健診を計画し実施します。

周囲の方々への健診の結果、感染していると診断された方は、発病をくい止めるため抗結核薬による発病予防を行うことがあります。

Q 1 5. 結核を予防するには、なにか方法がありますか

A 1 5. 結核が発病するのは過労，睡眠不足，栄養不足などにより，抵抗力が弱まったときです。睡眠時間を十分にとること，好き嫌いをせずバランスのとれた食事をする事，アルコールの過剰な摂取を控えることなどが大事となります。

また，長引く咳，微熱，倦怠感が続き変だなどと思ったときは早めに病院へ行くことなども重要です。

また，お年寄りや，小さいお子さんでは結核は発病しても，咳や熱などの症状が出にくい場合が多く，なんとなく体調が悪そうにしているなど，周りにいる家族の方が，早くこのような状況に気づいてあげて，早めに受診させるよう，心がけることも大切です。